

① けつによろ たんぱくによろ 血尿と蛋白尿



〜〜血尿が陽性の場合どんな病気があるの？〜〜

幼児期に検尿を行った場合、約 8%の児に血尿が指摘され、最終的に約 0.5%の児が血尿と診断されます。このような児の中から慢性腎炎や遺伝性の病気などが見つかることもあるのですが、すぐに何らかの対応をする必要はほとんどの場合ありません。

ただし、経過中に蛋白尿も陽性になってくると精密検査が必要になります。このため、定期的に尿検査を行い、尿所見が悪化していないか経過観察を行うことが重要です。

〜〜蛋白尿が陽性の場合どんな病気があるの？〜〜

幼児期に検尿を行った場合、約 1.2%の児に蛋白尿が指摘され、最終的に約 0.02%の児が蛋白尿と診断されます。陽性率は高くないのですが、蛋白尿の児からはネフローゼ症候群と言った糸球体の病気の他、先天性腎尿路異常といった生まれつきある腎の形態異常が見つかることがあります。これらの疾患は、すぐに治療介入する必要があることが多く、注意すべき一群です。医師の指示に従って適切に対応して下さい。

ただし、精密検査の結果病気が発見されず「無症候性蛋白尿」と診断され、蛋白尿の程度が軽度のものについては、定期的な検尿だけで大丈夫です。

〜〜血尿と蛋白尿の両方が陽性の場合どんな病気があるの？〜〜

幼児期に検尿を行った場合、最終的に約 0.03%の児が血尿・蛋白尿と診断されます。学校検尿（小学生～高校生を対象に行う検尿）では、血尿・蛋白尿陽性者の 60～70%の児童生徒から腎炎が見つかることとされ、非常に注意が必要な一群と考えられています。しかし、幼児期の検尿でこの一群から腎炎が見つかる割合は 20%弱とされており、学校検尿と比べるとそれほど多くはありません。

一方、前述の先天性腎尿路異常の他尿路感染症が見つかることがあり、やはり注意が必要な一群になります。血尿・蛋白尿が続く場合、病院で精密検査を行った結果何らかの疾患が見つかる可能性が高くなります。医師の指示に従って適切に対応して下さい。